# 五十一年度の回顧

町長　馬場幸太郎

昭和五十一年度も経済の不況による財政難のなかで皆様の御協力によりまして計画通り順調に町政を推進することが出来ましたことを感謝申し上げる次第です。

本年度をふりかえり、精力的にとりくんだ上水道事業と組合立東陽病院の問題について申し上げてみたいと思います。

上水道の加入促進につきましては、町民各位の御理解と御協力によりまして、予想以上の成績をあげることが出来ました。心配された水道料金の問題も、県当局の格別なる御配慮によりほぼ県営水道並の料金で給水の見通しがついたことは、大きな成果であり大変喜んでおります。なお、今後長期にわたり健全な経営が出来るよう努力いたします。

東陽病院については、外科医の招聘について光町外二町の町長、議長、椎名県議会議員と共に、何回となく千葉医大第一外科や県衛生部等に陳情を重ねてまいりました。

千葉医大の教授その他幹部の先生方の御骨折りによりまして、昨年十月、一人の外科医を紹介頂き就任して頂くことになったのですが、今年になり本人の都合で突然御破算になってしまいました。

昨年一年間八方手をつくし、奔走して感じたことは、現在の制度では、地方の自治体病院に優秀な医師を確保することは、きわめてむづかしいということであります。

現在医師になるためには私立の大学で入学金に平均二千万円、年間の学費に百万円もかかるそうです。一方国立の医大は地方の高等学校の学費程度で入学し、卒業出来る。私立大学との学費の差額は国の税金でまかなっていることになります。国が多額の助成をして養生された国立医大の卒業生は、野放しであり、研究に便利な収入の多い都市へ集中してしまう。

卒業した者個人にしてみれば、当然であろう、しかし、地方の公立病院や住民の医療は、どうでもよいのだろうか。

医療福祉を看板にしている我が国で国や県が国立の大学に対して医師派遣になんの権限も責任もないということは、どういうことだろうか。東北地方の某県では、公立病院の医師確保のため、町村長がこぞって台湾へ医師を頼みに行ったという話も聞いております。

世界一教育の進んでいる我が国で、農村地帯とはいえ外国から医師を招聘しなければ病院の経営が成り立たないという現実を文部省や厚生省は、何と思っているのだろうか。

私共は、日本を支えているものは、農村であり農村出身の有為な人々であると信じております。

故に、農村地帯の医療の確保は国勢の消長を左右する大きな問題であると思います。

これからも皆さんと共に、地方自治体の病院に医師の確保が容易になるような社会をつくるために努力致したいと思います。

# あなたの子供は……

## 非行防止は家庭から

最近青少年の非行が低年令化し層が大きくなったといわれます。

非行は特定の地域、特殊な家庭に発生するものと思われていましたが、現在は、普通の地域、普通の家庭からも発生しています。

これから学年末休みや始業前休みに入り、非行に走りやすい時期となります。

各家庭で、子供達の行動や服装等に気を配り次のことがらに注意しましょう。

① 子供の一日の行動をよく知っておくこと。

② 所持品、服装には常に注意をすること。

③ 夜間の長電話、呼び出し、外出は必ず内容を確認すること。

④ 勉強部屋に訪れた友達は、相手の家庭も確めること。

⑤ 不審な行為は、自他を問わず学校へ連絡すること。

⑥ 金品の貸借は、させない。

⑦ 無免許運転をさせないこと。

（家庭内でも、スイッチは、子供の目の届かない所に保管しておくこと。）

⑧ シンナー・ボンド・タバコの喫煙についても、洋服のポケットなどを点検すること。

⑨ 男女交際にしても、度を越さないよう注意し、双方の親達で、相手の名前等を聞くこと。

「私の子供に限って……」ということではなく、ある程度の疑いの目も必要ではないでしょうか？。

# 「先天性四肢障害児父母の会」に参加を

生まれたときから、手足及び耳などに異常のある子を持つ親たちによって「先天性四肢障害児父母の会」が結成され、現在、全国で300家族、県内では36家族が加入しています。

同会では、先天性四肢障害の原因究明や子どもたちのかかえている問題を解決するため、同じ悩みを持つ親たちの参加を呼びかけています。

連絡先　我孫子若松101の6の207
佐藤和江さん
電話　0471（84）4862（福祉事務所）